

入賞

## すてきなところの種を蒔く

山脇学園中学校  
むらた かのん  
村田 華音

「すごくすごくすてきなところだな」

これは今年の夏、10泊11日の東方旅行に家族で出かけ、福島県に訪れた際に感じたことだ。もちろん旅行で訪れたどの県も、どの場所も、とても魅力的で心に響くものがあった。しかし東日本大地震における放射線被害が特に大きかったとされる福島県では何か他とは異なった意味の魅力や感動を感じた。私の心という名の土壌に新しく「福島県ってすごくすごくすてきなところだな」という感情の種を蒔いて育ててくれた。

福島県での出来事を振り返ってみた。二本松城や岳温泉、富岡駅、道の駅なみえなどたくさんの場所に行ったが、私はその中でも「東日本大震災・原子力災害伝承館」ではたくさんの学びを得ることができたと思っている。青々と広がる芝生にガラス張りの建物がよく映えていた。建物内の常設展では、各人物、場所、時間の非常に様々な視点から東日本大地震における原発事故について映像やパネルなどをもとに展示がされていた。特に印象的だったのは除去土壌についての展示だった。環境省によると除去土壌とは福島第一原発事故の後、放射性物質で傷ついた環境を回復させるために除去された土壌のこととされている。除去土壌の入った袋のサンプルや当時着用されていた防護服などの臨場感溢れる物品から感じ取れる当時の様子。パネル展示を通して中間貯蔵施設の存在や除去土壌の安全性などについても知ることができた。こうして、私は伝承館で震災以降多くの人が

復興のために行動し続けていることを実感することができた。旅行は私にとってすごく濃密で有意義な時間だった。

旅行から帰宅し、私はどのようにしたらもっと多くの人に福島県の魅力について知ってもらえるか考えた。以前にも福島県には会津若松や郡山などへ訪れたことがあるが、今回の旅行含めて、行くたび、巡るたびに、福島県の人々の優しさ、まちの美しさ、食べ物のおいしさに心も体も温められてきた。そのとき、私はあの伝承館での除去土壌について思い出した。思いついたのだ、あの除去土壌を使って私たち中高生でも気軽に参加できるイベントを開催するというアイデアを。今の中高生の中には東日本大地震を経験していない人もいる、その中でこれからは東日本大地震という出来事を風化させずに正しく後世に残していくためには、そして福島県という原発事故の過去を持った福島県という場所の魅力をより多くの人に伝えていくためには、やはりイベント開催にはものすごい意義があると感じた。現在、除去土壌を用いた鉢植えの設置が環境省などをはじめとする様々な場所で進められている。例えばの話だが福島県外各地の公園に除去土壌を用いた花壇などを設置し、設置と同時に除去土壌についてのイベントを開催するなどのアイデアは多くの人に除去土壌について正しく理解し、身近に感じてもらうためにもとても良いと思った。もしこのようなイベントが実現できるのであればぜひ参加してみたいと思った。

多くの人に福島県について「すごくすごくすてきなところだな」と感じてもらうために、多くの活動が積極的に開催されることを願っている。そして自ら何かできる事があるか私たちなりに考え行動し続けていきたい。